

登場人物をよみとる	
5人全員をとらえたもの	13
4人	12
3人	11
一郎をよみおとしたもの	2
おしょうさんをよみおとしたもの	4
三次をよみおとしたもの	7
きよしをよみおとしたもの	19
まさおをよみおとしたもの	26
書かれていない人物をあげたもの	1
じろう	9
ひろし	8
ごろう	3
あきお	2
けんじ	1
よしお	1
こうじ	1
にじ	1
いちじ	1
たけし	1

この童話に登場するのは、おしょうさん、一郎、三次、きよし、まさおの五人である。全員をとらえたもの23%。登場人物のとらえ方が、かなり雑であることがわかる。

また、書かれていない人物、例えば、一郎がでているから、「二郎」もなどと、9名が書いている。ほかに、19名が書かれていない人物をあげている。

このようなことから考えると、一読したあとでも登場人物は、児童の頭の中に大して残っていないのである。ただ、おしょうさんと一郎がでていたことは、ほとんどとらえている。

(2) つたっているときの おしょうさんの気持ち

つぎのような読みとりをしている。

ここでは

- いちろうが、そっと手をのばしたこと。
- 「こらっ」
- 大きな声

つたっているときの おしょうさんの気持ち	
① とると すっぱいぞ	6
② まだとって だめだ	7
③ やめろ	1
④ みかんを とらせない	2
⑤ まだとらないでほしい	1
⑥ とるなというきもち	1
⑦ おこっている	8
⑧ もっとおこってやろう	1
⑨ ぶんなくろうかな	1
⑩ どろぼう小ぞうめ	1
⑪ どろぼうのはじまりだ	1
⑫ あしたもくるぞ	1
⑬ またあの子どもたち くるのかなあ	1
⑭ 秋になったら みかんくわせる	6
⑮ みかんが すきなんだなあ	2
⑯ しょうがないやつらだ	1
⑰ わるいきもち	1
⑱ へんなきもち	2
⑲ くやしい	1
⑳ つかまらなかった	1

- しょうじが ガラッとあく
- うでまくり
- つっ立っている。

などの、読みをもとにして、おしょうさんの気持ちを想像することになる。

①～⑥ みかんに対する子どもの行為を問題にしている。「こらっ」ということばを主に考えている。

⑦～⑨ おしょうさんは、「おこっている」のだというとらえ方。「こらっ」から、後の方を主に解釈しているようである。①②③⑩⑪なども怒りの気持ちが含まれていると考えているのであろう。

⑩～⑲は、「ぬすむ」ということに対しての気持ちである。